

くる。水がなくなったところで藪に突っ込んだと思ったら、10m程のやぶこぎで登山道に出た。  
(記 4)

[タイム] 甲子温泉(6:35)→一里滝沢出合(7:00)→右俣分岐(8:00)→遡行終了(10:10)→坊主沼避難小屋(10:45)

### 無名沢(下降)

1983年7月24日

L

天狗滝沢から尾根を越えて尾根1本東の無名沢の下降を開始する。最初の伏流が小さなルンゼとなり、沢となる。

この沢はちよっと下った所に2m、3m、2mと小滝が続き、いずれもすべらないように注意して下る。あとは平凡な沢歩きで、約30分後に本谷に出る。(記

[タイム] 下降開始(10:30)→阿武隈川本流(11:05)

### 天狗滝沢

1983年7月24日

L

林道終点から沢に入る。ここから雄滝までは河原歩きで、滝はない。落差10mの雄滝の右岸を尾根まで約30分、やぶこぎをする。急登なので、結構のアルバイトだ。尾根を反対側を下ると天狗滝沢である。

この沢は、明るい本沢とは対照的で、薄暗く、陰気な感じの泥沢だ。眼前には約35mの三段になった天狗滝がある。岩肌は黒



っぽく、コケが生えており、すべりやすそうだ。

左岸をかなり高捲きしてから、天狗滝の落口を確かめようと覗いてみると、天狗滝に続いて25mもの滝があり、驚いた。結局、2つの滝を一気に捲くことになる。

さらに上流に進むと、3mと2mの小滝が2つあるだけで、徐々に水量も減り、水が冷たく感じられる。この先は、勾配のない小川のように、兩岸の木立がおおいかぶ